

4 本時の活動とねらい（Aグループ）

(1) 「みんなでたいそう」

手をつないで輪になり、10カウントで右、左、前、後ろに歩いたり、しゃがんだりする。

- ねらい ① 友達や先生と手をつないで、大きく体を動かす。
② 周りの動きを感じながら動く。

(2) 「はらぺこあおむし」パネルシアター

ねらい パネルシアター

- ① パネルシアターに興味を持って、楽しむ。
② 「あおむし」のぬいぐるみを使って食べ物を食べる様子を表現する。
③ 「やりたい」という意思を挙手や声で表現する。

(3) 「はらぺこあおむし」^①『蝶になって友達にとまろう』（ごっこ遊び）

『蝶になって友達にとまろう』のねらい及び^②目標と支援の段階

① 自分から友達を選ぶ。

- ・ 言語と身体援助により、友達にタッチする。
- ・ 言語及びモデリングのプロンプトにより、友達にタッチする。
- ・ 指さしと言語のプロンプトにより、友達にタッチする。
- ・ 言語のプロンプトにより、友達にタッチする。
- ・ 自分から友達を選び、タッチする。

② 役割交代をする。

- ・ 言語と身体援助により、友達に蝶の帽子をかぶせる。
- ・ 言語及びモデリングのプロンプトにより、友達に蝶の帽子をかぶせる。
- ・ 指さしと言語のプロンプトにより、友達に蝶の帽子をかぶせる。
- ・ 言語のプロンプトにより、友達に蝶の帽子をかぶせる。
- ・ 友達にタッチした後、自分でその友達に蝶の帽子をかぶせる。

(4) 「あくしゅでこんにちは」

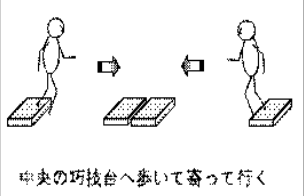
先生や友達と向き合い、歌に合わせて、一緒に振りをする。

ねらい

- ① 先生や友達と一緒に、相手を意識して動きを合わせる。
② 「あくしゅでこんにちは」の振りを覚え、自分からやろうとする。

「あくしゅでこんにちは」の動きの流れと^③評価の観点

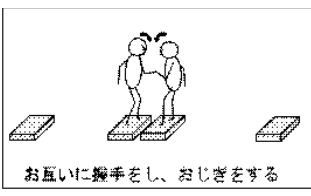
てくてくてくてく 歩いてき〜て〜



《評価の観点》
中央の巧技台へ向かう。
相手の顔を見る。
歩調を合わせる。
笑顔が出る。

中央の巧技台へ歩いて寄って行く

あ〜くしゅ〜で こんにちは〜



《評価の観点》
相手に手を差し出し握手をする。
相手の顔を見る。
笑顔が出る。

お互いに握手をし、おじぎをする

以下省略

解説

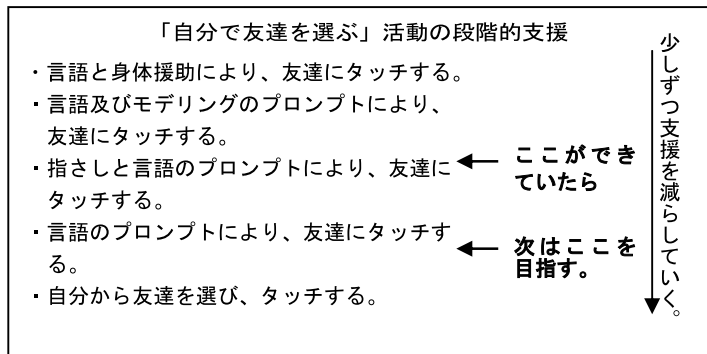
① 『蝶になって友達にとまろう』

この活動は「はらぺこあおむし」のパネルシアターの後に続けて行う活動です。“蝶のその後”という設定で、児童が蝶になって歌に合わせて羽ばたき、友達を選んでとまり、今度はその友達が蝶になって、また次の友達へと、蝶の役を替わっていく簡単なごっこ遊びです。

② 目標と支援の段階

この單元では、上記の「蝶になって友達にとまろう」の活動を主要單元とし、活動の内容を分析し、「自分で友達を選ぶ」と「友達と（蝶の）役割を交代する」の2つの行動に分け、それぞれの行動が自分からできるようになることを一つの到達目標として、支援を段階的に設定しました。この『段階的支援』は**徐々に支援を減らしていき、最終的には支援なしでできるようになることを目指します**。ここでは例えば、指さしと言葉掛け（言語のプロンプト）で友達を選べたら、次の目標は言葉掛けだけできると設定しています。もし、次の授業で言葉掛けだけではまだ難しい場合は、また指さしと言葉掛けで支援をします。その時、**言葉掛けだけで児童が反応しなかった場合に児童の反応を5秒程度待ちます**。障害がある児童は、理解して反応するまでに多少時間がかかるからです。十分に待って反応が見られなかった場合、支援をまた、指さしと言葉掛けをするという段階に戻します。ここで重要なポイントは**必ず児童が「できた」という形で活動を終わりにすること**です。児童にとって「できた」の積み重ねの上で支援を減らしていき、良好な人間関係の中で情動の共有を図りながら児童が達成感を感じるようにしていきます。

また、単元の最初は、「課題についてのアセスメント」の回とし支援なしの段階から、どの段階で児童ができるのか支援を増やしながら確認しました。その上で、下記のように一人一人の児童について、単元の終わりでの到達目標を設定しました。



障害がある児童は、理解して反応するまでに多少時間がかかるからです。

十分に待って反応が見られなかった場合、支援をまた、指さしと言葉掛けをするという段階に戻します。ここで重要なポイントは**必ず児童が「できた」という形で活動を終わりにすること**です。児童にとって「できた」の積み重ねの上で支援を減らしていき、良好な人間関係の中で情動の共有を図りながら児童が達成感を感じるようにしていきます。

また、単元の最初は、「課題についてのアセスメント」の回とし支援なしの段階から、どの段階で児童ができるのか支援を増やしながら確認しました。その上で、下記のように一人一人の児童について、単元の終わりでの到達目標を設定しました。

a 児	f 児
<p>【本単元の到達度(当初)】 『蝶になって友達にとまろう』</p> <p>①自分から友達を選ぶ。 言語のプロンプトにより、友達にタッチする。</p> <p>②役割交代をする。 指さしと言語のプロンプトにより、友達に蝶の帽子をかぶせる。</p>	<p>【本単元における到達度(当初)】 『蝶になって友達にとまろう』</p> <p>①自分から友達を選ぶ。 言語と身体援助により、友達にタッチする。</p> <p>②役割交代をする。 指さしと言語のプロンプトにより、友達に蝶の帽子をかぶせる。</p>
<p>【本単元における目標】 『蝶になって友達にとまろう』</p> <p>①自分から友達を選ぶ。 自分から友達を選び、タッチする。</p> <p>②役割交代をする。 友達にタッチした後、自分でその友達に蝶の帽子をかぶせる。</p>	<p>【本単元における目標】 『蝶になって友達にとまろう』</p> <p>①自分から友達を選ぶ。 自分から友達を選び、タッチする。</p> <p>②役割交代をする。 言語のプロンプトにより、友達に蝶の帽子をかぶせる。</p>

③ 評価の観点

「あくしゅでこんにちは」、歌の流れの中での活動なので段階的支援を設定することは難しい活動です。しかし、活動の内容を分析して評価の観点を明確にすることで、それぞれの児童への適切な目標設定と支援方法について教師間で共通理解して取り組むことができました。